

9月16日、1年生を対象に、「赤ちゃんふれあい体験」を実施しました。

29人の赤ちゃんがお母さんやご家族と一緒に参加してくださいました。この体験には、家庭教育アドバイザーの木村さんと宮沢さん、サザン地域支え合い協議会の戸沢さんと佐藤さん、民生・児童委員の内藤さん、防衛医科大学校の先生方と学生、女子栄養大学の学生等たくさんの方々に御協力をいただきました。

～生徒の感想より～

- ・赤ちゃんの小さな手に人差し指を置いたらギュッと握ってくれたときや、プニプニの足、腕を触ったとき、抱っこしているときに自分の顔をじっと見てくれていたとき、とてもかわいらしいと思い、抱っこしたときに少し重かったときには、命の重みを感じることができました。改めて両親に感謝の気持ちを伝えようと思いました。
- ・おむつを替えるときや、泣いちゃったときに、お母さんにさりげなくフォローするお父さんを見て「もし子どもができれば、こんなことができるお父さんになりたいと思ったほど感動しました。
- ・抱っこした時に泣いてしまった子がいたけれど、その子のお母さんが「赤ちゃんは泣くことが仕事だから」と言ってくれたので安心できました。
- ・出産のときに、赤ちゃんがなかなか出てこなかった話や、帝王切開をした話を聞き、赤ちゃんを産むのは決して簡単ではないと改めて知りました。私がどうやって生まれてきたのか聞いてみたい



赤ちゃんと遊ぶおもちゃも事前に作りました。



～参加していただいたお母さんのアンケートより～

- ・中学生が緊張しながら子どもと向き合っている姿に命の重みや大切さを感じていました。一生懸命あやそうとしたり、おむつを替えてくれたりする姿に嬉しくなりました。
- ・私自身もお話しさせていただくことで、改めてわが子の大切さを感じることができました。
- ・抱っこが上手でびっくりしました。真剣に参加してくれてとても嬉しく思いました。



～学生ボランティアの感想より～

- ・地域のご家族のサポートを受け、このような体験ができることは貴重な機会だと感じました。
- ・生徒の赤ちゃんに対するワクワク、ドキドキした表情が印象的でした。将来、養護教諭として働くときに参考にしたいと思いました。



